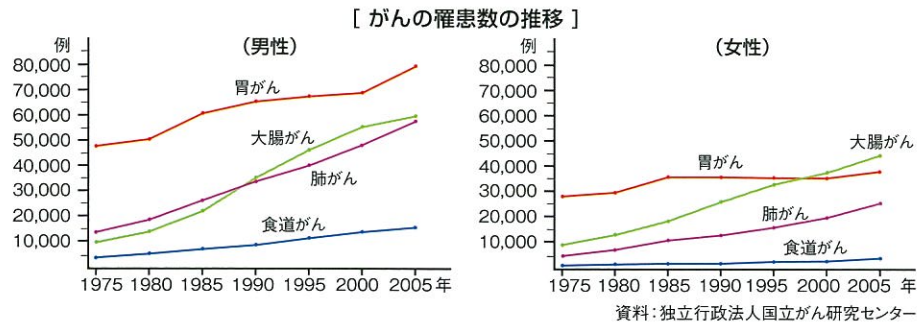


増え続けている、がん

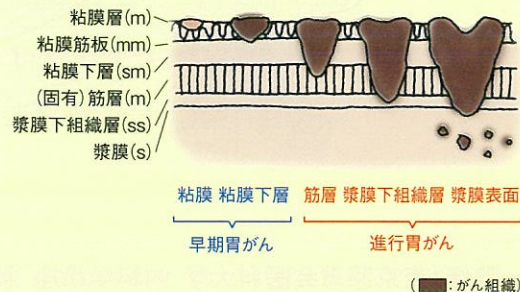
近年、わが国において、がんにかかる患者さんの数がますます増えてきています。その一方で、内視鏡や外科治療、化学療法、放射線療法といった医療技術の進歩によって、がんは早期に処置すれば治る可能性のある病気になってきています。



? そもそも、がんってどんな病気?

がん細胞とは、細胞の中のDNAが傷つけられることで発生する、異常な細胞のことです。がん細胞は血管から栄養を奪って増殖を繰り返し、毒素を出しながら大きくなり、がん組織となって臓器の働きを妨げます。そして、進行すればするほど、生命がおびやかされることに…。しかし逆に言えば、がんを見つけるのが早ければ早いほど、治る可能性も高いということです。

[早期胃がんと進行胃がん]

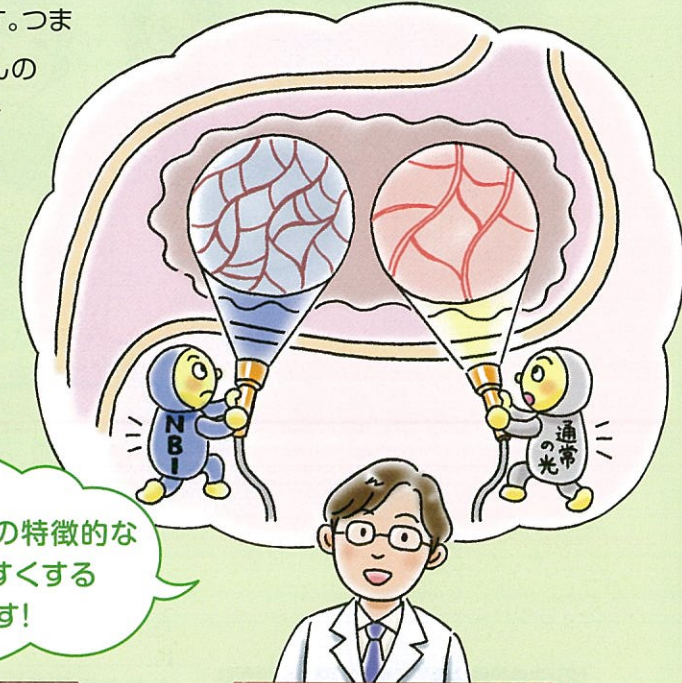


がんを治すには
早期発見が
重要です!

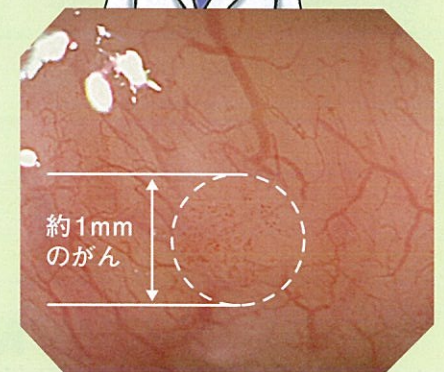
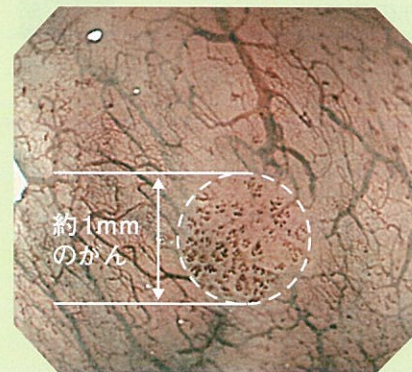
がんの早期発見につながる

なぜNBIは早期発見につながりやすいの?

がん細胞は血管から栄養を補給して増殖するため、がんの始まりには近くに小さな血管が集まりやすくなります。NBIは、こうした特徴に強く反応する特殊な青い光を照らして観察を行う技術です。つまり、特殊な光の力で初期がんの特徴的な変化をわかりやすく照らし出すから、通常的光での観察より早期発見につながりやすいといわれているのです。



NBIは、初期のがんの特徴的な変化を見つけやすくする技術なんです!



▲ NBIで見た画像

▲ 通常的光で見た画像

※2つの内視鏡画像は、大きさ約1mmの食道がんを撮影した画像です。拡大内視鏡で同じ部位を観察したものです。

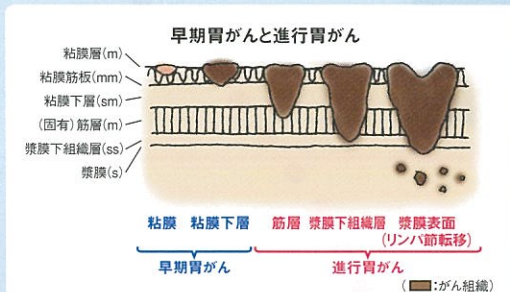
早期発見と早期治療。

胃がん克服のために、とても大切なこと。

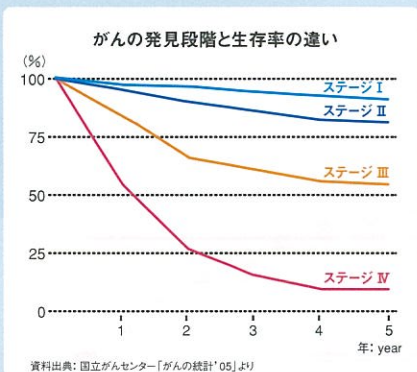
胃がんは、粘膜の表面から徐々に深く広がるにつれ、転移しやすくなります。がんの広がりや粘膜下層までにとどまっているものを早期がん、筋層より深く広がるものを進行がんと呼んでいます。がんの進行度合いは「ステージ(病期)」として分類され、早期がんと進行がんの初期の段階が「ステージI」、もっとも進行したものが「ステージIV」とされます。ステージIの早期がんであれば、内視鏡治療や手術で治る割合がきわめて高くなる調査結果があり、がんの治療にとって早期発見と早期治療が大切であることを示しています。



早期がん写真



胃がんは胃壁の外に向かって粘膜層→粘膜下層→固有筋層→漿膜下組織層へと徐々に深く浸潤(しんじゅん)するにつれ転移しやすくなります。早期がんと進行がんの違いは、どこまで浸潤しているかで決まり、治療法も異なります。



がんの進行度別の生存率を調査したグラフです。早期がんを指す「ステージI」であれば治癒の目安となる「5年生存率」も90%以上となり、早期発見が重要であることがわかります。

内視鏡検査の受け方

検査手順は施設により異なります。検査の必要性や検査方法などの説明を十分に受け、了解のうえ検査を受けましょう。

1 検査前日

- 夕食は早めに摂り、夜9時以降は水以外の飲食は避けましょう。
- 早めの就寝を心がけましょう。

2 検査当日

- 水以外の飲食、薬の服用はしないでください。

3 検査前の準備

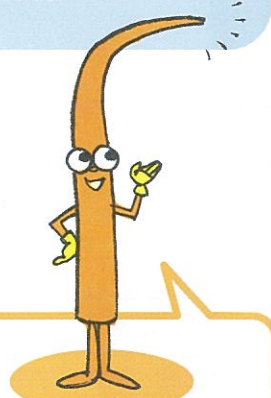
- 胃の中をきれいにするため、消泡剤(白い液体の薬)を飲み、のどの麻酔薬をしばらくのどにためた後、ゆっくりと飲み干します。



30代 から、心がけたい定期検診。

がんは進行すると、自覚症状があらわれます。早期がんの発見は治癒の可能性と生存率を高めますが、そのためには自覚症状のあらわれる前から、定期的に検診を受けることが大切です。

では内視鏡検査の手順を紹介します。



鼻からの挿入も可能にした「極細内視鏡」

通常、上部内視鏡検査は口からチューブを挿入する「経口挿入」という方法により行われますが、極細化により、鼻からの「経鼻挿入」もできるようになりました。チューブの挿入部がのどを直接刺激することが少ないため、「咽頭反射」と呼ばれる吐き気に似た反応が出にくく、検査時の負担が軽くなる場合があります。



鉛筆と比較した「極細内視鏡」の先端部

